おやこであそぼう

絵本と、わらべうたの時間
2020年 2月19日

☆～　今月の絵本と紙芝居と　紹介絵本　～☆

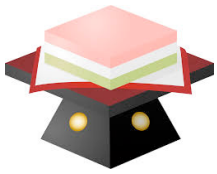
＊あっ！（金の星社）作・絵：長新太
＊紙芝居　うちのにゃあにゃ（童心社）脚本：おおたか蓮／絵：山本祐司
＊ぶかぶか（ ポプラ社）作：かどのえいこ／絵：スギヤマカナヨ
＊したく（文化出版局）作・絵：ヘレン・オクセンバリー
＊ぶかぶかティッチ（福音館書店） 作・絵：パット・ハッチンス
＊くつがあったらなにをする（福音館書店 ）
作：ビアトリス・シェンク・ドゥ・レニエ／絵：モーリス・センダック
＊くつくつどんなくつ（富山房 ）
作：エリザベス・ウィンスロップ／絵：ジョイス・ウィリアム
＊パンツちゃんとはけたかな（教育画劇 ）作・絵：宮野聡子
＊うちのねこちゃん（偕成社）作：松谷みよ子／絵：小沢良吉

☆～　今年の干支　ねずみの絵本　～☆

＊てこてこ てこてこ はりねずみ（福音館書店 ）作・絵：田島征三
＊はりねずみ かあさん（福音館書店 ）作：まつやさやか／絵：M・ミトゥ–リチ
＊おなかがいたいこねずみ（福音館書店 ）作：征矢清／絵：山内彩子
＊ちいさなはりねずみ（福音館書店 ）作：八百坂洋子／絵：ナターリア・チャルーシナ
＊はりねずみのはりこ（福音館書店 ）作・絵：なかやみわ
＊おむすびころりん（偕成社）作：輿田準一／絵：渡辺三郎

☆～　今月のうた　～☆

♫うちのうらの　くろねこが
うちのうらの　くろねこが
おしろいつけて　べにつけて
ひとにみられて　ちょいとかくす



♫雪のこぼうず

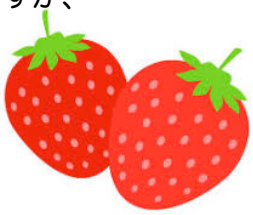
1. 雪のこぼうず
雪のこぼうず
屋根におりた
つるりとすべって
風にのってきえた

2. 雪のこぼうず
雪のこぼうず
池におりた
するりともぐって
みんなみんなきえた

3. 雪のこぼうず
雪のこぼうず
草におりた
じっとすわって
水になってきえた

イチゴの話

店先に、赤いイチゴが並び、赤さも甘さも、さらに増しているように感じます。
昨年の台風19号は、各地に大きな被害をもたらしましたが、なんと言っても、私たちの「食」に関係する面での被害は、やはり一番の関心事であり、心配事でもありました。
栃木や長野では、イチゴハウスが被害を受けました。そのような中、
クリスマスケーキ用のイチゴも何とか間に合った、というニュースを聞きました。
さて、今でこそ11月頃から翌年の5月頃まで店頭に並んでいるイチゴですが、
本来は、4～5月が、路地物の最盛期です。



継母と継姉に言われ、 雪深い森にイチゴを探しに行ったのは、
「マルシュカ」という娘です。「１２の月のおくりもの」というお話、
このお話の中では、イチゴを実らせるのは「６月」となっています。
福音館書店の「１２のつきのおくりもの」は、今から49年近く前に
出版されていて、殆どの方たちは、この絵本をお読みになったのではないでしょうか？
まっ白な雪の世界で、ぽっと灯りがついたような真っ赤なイチゴからは、明るさだけでなく
温もりも感じられ、 雪深いスラブの人たちの春を待つ気持ちでもあったのかもしれません。
確かに冬に、ほんわりと暖房の効いたお部屋で食べる甘いイチゴは、本当に美味しいですし、
体の中にエネルギーが蓄えられるような気さえします。
最近は、色々な版の絵本が出ていますので、改めてこのお話を読んで、お話や絵の美しさ、
そして今の生活の豊かさを感じてみてはいかがでしょうか？
＊１２のつきのおくりもの（福音館書店） 再話：内田莉莎子／絵：丸木俊
＊１２のつきのおくりもの（フレーベル館） 文：石井睦美／絵：メグホソキ
＊１２の月たち（評論社） 作：サムイル・マルシャーク／絵：ダイアン・スタンレー
＊１２の月たち（ミキハウス） 訳：ジョン・シェリー／絵：鈴木晶
＊十二の月たち（偕成社） 再話：ボジェナ・ニェムツォヴァー／絵：出久根育
＊マルーシカと１２の月（講談社） 作：かんのゆうこ／絵：たなか鮎子

次は　2020年 3月18日（水）

お問い合わせ
クリスト・ロア修道会
TEL０４２（４６５）８６２０